

# 昭和肥料ニュース FAX版



Vol. 028

中国が尿素・リン安輸出を禁止しており、解除の見込みはありません。そのため今後は、成分横並びの高度化成からL型の低度化成を使った作付けへの切り替えが必要ですが、そうすると「リン酸不足が心配」との声も当然出ます。

溜まったリン酸がある場合は貯金を上手に効かせるべきなのは分かりますが、(2021年4月号を参照ください。弊社HPでも見られます。)溜まったリン酸が乏しい場合はどうしたら良いのでしょうか？

## 必要分の施肥&リン酸が効きやすい技

リン酸は必要量を入れる必要があります。3要素と呼ばれるだけあり欠乏すると減収するからです。必要量=これ以上施肥しても増収に寄与しない量と定義すると、水稻で10、トマトで130、大豆で115(単位はmg/100g)とされています。各作物ごとに異なりますが、その量までの施用は推奨してください。弊社のリン酸入り製品もよろしく！

リン酸を効かせる技を再確認すると・・・

- ① 土壌酸度矯正しpHを6前後にする(弱酸～中性域が最も肥効が高い)
  - ② 完熟堆肥との混合施用(土壌と肥料の直接接触を最小化し無駄にしない)
  - ③ 畝施用、局所施用(生育初期に効かず。局所施肥はリン酸単肥向け技術)
  - ④ 通気性の良い土づくり(共生菌のリン酸吸収を助け、リン酸無駄ゼロへ)
  - ⑤ 水溶性、く溶性のリン酸の同時施用(一方より効果的、相乗効果あり)
  - ⑥ 地温を上げる各工夫(マルチ使用、低温期は灌水スパンを長く取る等)
- などが一般的に知られます。貴重なリン酸の節約にご参考ください。

## 堆肥で補う場合は十分注意を！

国・農水関係者はここぞと「堆肥施用」を推しているようですが、堆肥のリン酸は、根に吸う力がないと効果が出なかったり、多投入するとリン酸以外の成分過剰で根傷みを起こしたりなど、注意が必要です。

◎信用できる完熟したものを適量、継続し使う

×未熟なものを短期的にドカッと入れる(作付け直前などもってのほかです)

**堆肥のリン酸をもシッカリ吸えるような土づくりがやはり大切です！**

弊社品愛用の某プロ生産者達(水稻、根菜、果樹の生産者)が異口同音に「肥料を活かす土づくりをウチはしてきた、来年が楽しみだ」とおしゃっています。活きの良い根を張らすことで、肥料吸収を最大化する準備が出来ているようです。貴社でも是非土づくり提案の継続をお願いします。